



国民の森林・国有林

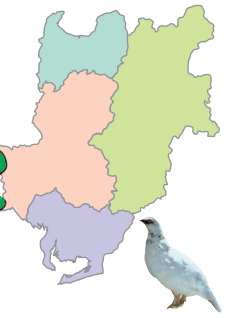
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



「日本美林まつり」記念市で祝辞を述べる新島局長



記念市に出品された「信州プレミアムカラマツ」

「信州プレミアムカラマツ」初出荷 木曽官材市売協同組合の「日本美林まつり」記念市を開催

主な項目	○ 中部森林管理局 熱田区区制80周年記念式典	P2
	○ 各地からのたより	P6
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

**熱田区区制八十周年記念式典
区民まつり
「にぎわい秋まつり」に出展!**

「名古屋事務所」名古屋熱田区は、昭和十二年（一九三七年）十月に熱田区として区制が施行されてから本年十月で八十年となります。

八十周年を記念して、十月七日に記念式典、十月八日には「にぎわい秋まつり」が実施され、名古屋事務所は、木曽森林ふれあい推進センター、ボランティア（FCA）フォレスト、サークル、あいち）の協力でモックンづくり、パネル展示、「熱田白鳥の歴史館」の特別開館、ミニイスづくりを出展しました。

十月七日の記念式典では、「熱田ブランドのシンボルマーク」のお披露目や、「熱田ブランド宣言」が式典出席者全員、の唱和により宣言されました。



熱田ブランドのシンボルマーク

十月八日の「にぎわい秋まつり」は、晴天に恵まれ多数の来場者がありました。

モックン（サクラの枝を使ったストラップ）づくりは会場内のテントで行い、一時は順番待ちの列ができるなど大

盛況でした。

下は五歳の男の子から上は八十歳の方までが、慣れないペンチを使って思い思いのストラップを作りました。

「昨年も来たよ」と鞆に付けたモックンを見せて、自分で作ったモックンの鈴をチリンチリン鳴らしながら、今年も世界に一つだけのモックンを作製して嬉しそうに持ち帰られていました。

「熱田白鳥の歴史館」は、日頃は平日のみの開館ですが、当日は特別に開館しました。



モックンを作製



ミニイスを作製

来場者からは「やつと来れました」「次の土日開館はいつですか?」など、仕事の都合などで平日には来館できない方々にも、熱田白鳥の歴史に触れていただけました。

また、ミニイスづくりもボランティアの方々の指導で、四十組の親子などが体験しました。十名毎、四回の実施でしたが、大変好評で受け付け開始後約三十分で全ての申し込みが埋まってしまいました。

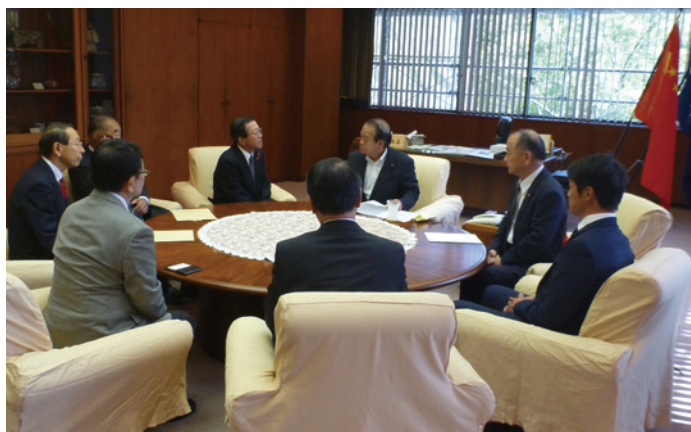
四歳の女の子はお父さんと協力して完

成したイスに嬉しそうに座ったり、使い慣れないドライバーを一生懸命に回す姿などが見られ、完成したイスを大切に持ち帰っていました。

名古屋事務所では、イベントなどを通じて地域の方々に、国有林に関する情報発信や木の良さを感じていただくことによる木材利用の推進に取り組んでいます。

**木造・木質化の推進、木製品の採用を
愛知県や名古屋市等へ要望書を提出**

「名古屋事務所」十月十一日に愛知県木材利用推進協議会（西垣洋一会長）が、愛知県や名古屋市等に対して木材の利用



愛知県議会議長（右から3番目）への要請



河村名古屋市長（左）に要望書を渡す西垣会長

推進に関する要望活動を実施しました。この活動は木づかい推進月間に合わせ毎年取り組んでおり、名古屋事務所からもオブザーバーとして二名が参加しました。

最初に県議事堂会議室にて、愛知県の勝又農林基盤局長に平成三十一年に開催する全国植樹祭会場施設への木材利用、環境物品等調達方針に基づく合法木材・木製品の調達などの要請項目を記した要望書を手交しました。局長からは、協議関係者とともに県も努力していきたいと力強い表明をいただきました。

その後、森岡副知事室へ移動、森岡副知事と林業・林産業を取り巻く状況などについて意見交換を行いました。

西垣会長からは、輸入材の入荷が減少傾向にある現状などを説明し「あいち認

証材」利用など国産材へのシフトを促すために、県による公共建築物等への木造・木質化の推進を要請しました。これに対し森岡副知事からは、県としても取組を進める、業界も建築士や一般消費者などに木材利用をもっとPRすべきとの助言がありました。

県関係ではこの他、知事室（秘書対応）や他の副知事室、建設部など関係係局、県議会を回り要望活動を終了しました。

続いて名古屋市役所へ移動、河村名古屋市長に要望書を提出し意見交換を行いました。

木造による復元に向けて動きつつある天守閣について、河村市長から冒頭「名古屋城は、あんばいよういっとるんけん」と名物口調で質問がありました。が、「木材を確保するには山主など色々の調整が必要、具体的な要請がないと動けないので市も動いてほしい」と要望しました。

また、公共施設等へ木材を使うことについて、市担当者から見積単価が高くなかなか使いづらいとの話が出されたので、西垣会長から「我々に見積も含め相談いただきたい」と返したところ、河村市長から「担当部局に話して、推進プロジェクトチームを立ち上げるので、業界の方にも入ってもらって色々と提案いただきたい」と前向きな発言が飛び出しました。是非お願いしたいということに要

望を伝えました。

また、市議会に対しても、名古屋城早期復元などに対しても協力を求める要望を行いました。

この他、東海農政局及び中部地方整備局へも木材利用の推進をお願いし要望活動の日程を終えました。

当日は気温三十度を超える非常に暑いなかでの活動でしたが、協議会も気温に負けないように各機関に対し、木材の利用推進を熱く訴えてきました。



有賀首席森林官から説明を受ける参加者

森林ボランティア・NPO連携推進会議が「森・ふれあいフェスタ」を開催



親子で協力、檜の箸を作製中

「ふれあい推進センター」十月十三日、十四日の二日間、諏訪郡下諏訪町において「森林ボランティア・NPO連携推進会議」を開催しました。

この会議は、中部森林管理局管内で活動する森林ボランティア団体やNPO法人が一堂に会し、互いの交流や、市民参加型のワークショップを実施するイベント「森・ふれあいフェスタ」の開催を通じて、更なる資質の向上と連携強化を図るとともに、広く一般市民の皆さんに、国民参加の森林づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に開催したもので、十一団体と局署職員合わせて四十六名が参加しました。

開催一日目は小雨模様でしたが、開会式終了後、参加団体の見識を広げるため、参加者全員が南信森林管理署管内の東俣国有林内にある八島湿原まで移動しました。到着したところには雨も止み、南信森林管理署上諏訪森林事務所有賀首席森林官から、八島湿原の概要や生息する動植物の説明、ニホンジカの防護柵の設置状況等の説明を聞き、秋深い八島湿原の散策を楽しみました。

その後、翌日の会場となる、あすなろ公園に移動し、それぞれ十箇所に分かれ、ワークシヨップの各ブース毎で打合せを行いました。

二日目は、諏訪地域の皆さんに参加していただく「森・ふれあいフェスタ」を開催しました。

当日は、前夜からの雨で、あすなろ公園がぬかるんでいたため、公園横の屋内運動場に会場を移したことから、火を扱う青竹パン作りはできませんでしたが、チラシ配布等の効果もあり、開催時間前には、数組の親子連れが会場を訪れ、木製パーツを組み立てるミニイス作りや、檜の箸や竹とんぼ作り、木工細工や、土からできた不思議な絵の具を使ったドパースアートのブースなど様々な体験を楽しんでいました。

また、下諏訪町の観光PRキャラクターで八島湿原に生息する「シユレーゲルアオガエル」の「やしまる」の登場で、子供達は握手や、記念撮影などでさ

らに盛り上がりました。

雨天で会場が屋内運動場になったことから、昨年より来客数は少なく延べ四百五十名の参加者となりましたが、木や自然素材の数々と触れ合ってもらおう機会をつくることができ「楽しかった」「また参加したい」「来年も企画してほしい」との声が聞かれました。

今年度から、主催をボランティア団体代表による実行委員会に移行し、中部森林管理局は後援となりましたが、協力した局署の職員も、様々なNPO団体等と接する機会となり、また、参加したボランティア団体の皆さんも、二日間を通して充実した連携・交流の場となりました。

「信州プレミアムカラマツ」

初出荷

【資源活用課】十月二十五日、木曾郡上松町にある木曾官材市売協同組合の「日本美林まつり」の記念市において、「信州プレミアムカラマツ」の初出荷が行われました。

記念市には、木曾五木をはじめ、信州プレミアムカラマツなど約七〇〇立方メートルが出品され、そのうち、信州プレミアムカラマツは、北信、中信及び南信地区の国有林から二十一本、約一六立方メートル、小海町の民有林から十二本、約六立方メートル、合計三十三本、約二二立方メートルが出品され



記念市で入札の様子

ました。

記念市では、木曾官材市売協同組合の野村理事長からの主催者挨拶の後、新島中部森林管理局長、村上長野県議会議員、原木曾広域連合長が祝辞を述べられ、午後一時から入札が開始されました。会場には多くの報道関係者や製材業者等が詰めかけ、「信州プレミアムカラマツ」への関心の高さを裏付けるかたちとなりました。

「信州プレミアムカラマツ」の販売結果については、飯綱町の霊仙寺山国有林



「信州プレミアムカラマツ」の美しい木口



土場に並べられた「信州プレミアムカラマツ」

「信州プレミアムカラマツ」の販売結果

産地	長級	径級	本数	材積(m³)	単価(円)	買受者	用途
霊仙寺山国有林 (飯綱町) 林齢 105 年	4.0	40	1	0.640	25,000	K社	建築材
	4.0	38	1	0.578	38,600	O社	仏具
	4.0	38	1	0.578	31,000	M社	建築材
	4.0	34	1	0.462	22,000	K社	建築材
	4.0	30	1	0.360	20,000	K社	建築材
	4.0	30	1	0.360	20,000	K社	建築材
小計			6	2.978	27,129		
奈良井国有林 (塩尻市) 林齢 91 年	5.0	48	1	1.152	29,000	K社	建築材
	5.0	42	1	0.882	28,000	A社	建築材
	5.0	40	2	1.600	25,000	K社	建築材
	5.0	36	3	1.944	20,000	K社	建築材
	4.0	52	1	1.082	25,000	K社	建築材
小計			8	6.660	24,630		
贄川国有林 (塩尻市) 林齢 103 年	5.0	42	1	0.882	32,000	K社	建築材
	5.0	44	1	0.968	32,000	K社	建築材
	5.0	38	1	0.722	28,000	N社	建築材
	5.0	36	1	0.648	22,000	K社	建築材
	5.0	52	1	1.352	38,000	A社	建築材
	5.0	44	1	0.968	26,000	A社	建築材
小計			6	5.540	30,725		
東俣国有林 (下諏訪町) 林齢 104 年	5.0	36	1	0.648	20,000	K社	建築材
小計			1	0.648	20,000		
民有林材 (小海町) 林齢 84 年	5.0	32	3	1.536	23,000	K社	建築材
	5.0	30~34	3	1.478	23,000	K社	建築材
	5.0	30~32	3	1.412	23,000	K社	建築材
	6.0	30	3	1.731	32,000	K社	建築材
小計			12	6.157	25,530		
合計			33	21.983	26,620		

から出材された長級四段、径級三八センチ、材積〇・五七八立方メートルの丸太が一立方メートル当たり三八、六〇〇円、塩尻市の贄川国有林から出材された長級五段、径級五十二センチ、材積一・三五二立方メートルの丸太が一立方メートル当たり三八、〇〇〇円と

なるなど、通常の二倍以上の高額で販売された丸太もありました。やや細めの径級三〇センチ台が多かったこともあり、「信州プレミアムカラマツ」全体では、平均販売単価が一立方メートル当たり二六、六二〇円となりました。(注：価格は

は税抜き価格)
購入された製材業者等の方に用途を聞いたところ、大型木造建築の梁、桁などの横架材としての使用を考えている方、住宅の柱などの構造材への使用を考えている方のほかには仏具に使用するという

方もいました。

今後は、「信州プレミアムカラマツ」の安定供給体制を整備するとともに、そこから製材された製品についても、このブランド名を創設した四者が中心となって相互に連携し、製品のブランド化を通じてサプライチェーンの構築とともに、カラマツ材A材としての評価の向上などに取り組んでいきたいと考えております。

今回、木曽官材市売協同組合の記念市において、初めて「信州プレミアムカラマツ」を販売しましたが、今後は県内各地域に設置されている長野県森林組合連合会の木材センター、木曽官材市売協同組合、木曽森林管理署の土場などで随時販売していく予定ですので、是非、現地でご覧ください。

各地からのたより

意見交換で上下流の交流を図る！

国有林の視察交流会を開催

「名古屋事務所・愛知所」十月五日、川上・川下の相互理解を深めることを目的に、名古屋木材組合加盟の業界関係者ら二十三名が豊田森林組合と愛知所管内を視察、併せて意見交換を行いました。

名古屋事務所「熱田白鳥の歴史館」を出発した一行は、市町村合併を受けて誕生した愛知県で一番広い面積を管轄する

豊田森林組合へ向かいました。

森林組合に着いた一行は、組合会議室において清水森林組合長から歓迎の挨拶を受けた後、約六二、〇〇鈔の森林面積を、役職員等合わせて約二百名で、本所と六支所体制で運営している等の概要と、平成二十七年までにできた木造の組合事務所庁舎の概要について説明を受けました。

説明後、軸組工法で建てられた組合庁舎を視察、地域材のヒノキなど優良木材を贅沢に使用した造りに業界関係者ばかりである参加者も非常に興味深く見入っ



森林組合庁舎を見学する参加者

ていました。
庁舎視察後は、会議室に戻り意見交換を実施、参加者から「木材が入りづらくなっている現状がありヒノキの需要拡大を図るチャンスだが、代替となる資材は品薄が続いているのでニーズに沿った材の生産を増やすべき」との意見に対し、組合からは「需要情報がなかなか入らないので、川下との連携を深めるなかで情報収集に努めていきたい」の話がありました。このほか優良材の入手方法や不在地主対策など活発な意見が交わされ、終了予定時間をオーバーして最初の視察を



豊田森林組合と参加者の意見交換

終わりました。

午後は段戸国有林へ移動、一八九三年に植えられた一番古い造林地（六八八林小班・一三五年生）にて、丸山愛知所長から歓迎の挨拶と最古造林地の説明を受けました。ヒノキの大木が立ち並ぶ人工林に、参加者は見入っていました。

次に間伐作業地（七五は林小班）へ移動、ここでは最古造林地にも引けをとらない一三二年生ヒノキの間伐が行われており、愛知所の職員から事業概要の説明



作業現場で意見交換する様子



伐倒されたヒノキの大木を間近で見る参加者

を受けた後、請負事業者である新城森林組合職員による伐倒作業の様子を見学しました。胸高直径五〇センチを超える大木が予定どおりの伐倒方向に地響きを立てて倒れると、参加者からは思わず拍手が起こりました。

伐倒されたヒノキに近寄ることができたので、参加者は直に触ってその大きさを感じていました。また、中には森林組合職員と採材について話し合う場面も見受けられました。

その後、愛知所・新城森林組合の職員と現地で見学交換を実施、参加者からは原木の行き先（販売先）に関する質問が、逆に組合からは原木を少しでも高く買っていたく努力をなどの要望が出さ

れていました。

また、民有林で伐採したスギの大木について、採材をどのようにすればよいかと写真を見せながら市売関係の参加者にアドバイスを求める場面も見られるなど、終始和やかな意見交換を行い視察交流会の日程を終えました。

今回の視察交流会は、現場を知る見るだけでなく、相互理解を深めることに重点をおいて計画しましたが、終了後に記入してもらった参加者アンケートにも「山を守り良い製品を川下へ」という熱意が伝わった」「現場の努力が伝わってきた」「材木の有効利用も考えていきたい」などの感想もあり、上下流を繋げるいい機会になったものと思われれます。

また、参加者から、川上から川下を結びつける取組を継続して続けて欲しいという要望も聞かれたことから、名古屋事務所としては今後も上下流の架け橋となるような機会づくりに積極的に取り組みたいと思います。

生活習慣病予防のため

健康料理講習会を実施

【東信署】十月三日、佐久市コスモホールにて当署の健康大会に併せて、健康講話及び健康料理講習会を実施しました。講師に、佐久保健福祉事務所健康づくり支援課の課長補佐で管理栄養士でもある小林秀子さんを迎え、生活習慣病予防の

ために「健康に食べる」をテーマにした講義のほか、「主食、主菜、副菜」を揃えた料理作りの指導を受けました。

当日は六班に分かれ、さばのみそ煮（主菜）、ほうれん草とのりの和風サラダ（副菜）、れんこんサラダ（副菜）、けんちん汁（副菜）の四品を長野県食生活改善推進協議会佐久支部の皆様協力も得ながら作りました。主食のごはんは事前においしく炊いておいていただきました。

塩分の摂り過ぎが体には良くないので、今回はポン酢醤油を使うなど減塩に心掛け、のりやごまなどの風味で、少ない塩分でも満足できる料理が中心となりました。



真剣に料理に取り組む職員（さばのみそ煮作り）



できあがった力作の料理。美味しそ～

普段料理をしている者は手際よく野菜を切ったり、調味料を調べていきました。中には洗いや物に徹する者などもあり、和気あいあいとした雰囲気です。か時間制限の一時半で四品を作り上げることができました。

班によっては、野菜を茹でるのを忘れ、堅いれんこんサラダになってしまった班もありましたが、自分で作った料理はおいしく、皆で一つのことに取り組むことが少なくなった中で、今回の料理作りは良い取組みとなりました。

今回の料理作りや講話を通じ、減塩への取組み、食べ過ぎない、飲み過ぎないことなど生活習慣病予防の大切さを再認識したところです。

多様な森林づくりを進めるために 「広葉樹の勉強会を実施」

【岐阜署】十月十日、飛騨署管内の黒内国有林内にある「二ツ塚の森」（飛騨地方の広葉樹展示林）において、職員を対象に、広葉樹に関する知識向上を目的とした勉強会（職場内研修）を開催しました。

当日、署の会議室において、藤村署長から「多様な森林づくりを進めるために」、その第一歩として広葉樹に興味を



広葉樹の葉の特徴、見分け方を説明する俣野さん



「ニツ塚の森」で樹木鑑定

持つてもらいたい」と挨拶を受けた後、樹木名の鑑定に精通している一般職員（俣野篤樹さん）を講師に①有用樹種とは、②広葉樹の見分け方、③樹皮、枝葉の形状、材種の特徴、④樹種毎の用途などについてパワーポイントで説明を受け、樹種の見分け方について学習しました。

午後からは、「ニツ塚の森」に移動し、展示林内に植栽してある百四十五種類のうち、午前中に学んだ有用広葉樹種の中から、事前に選定された三十二種類につ

いて、樹木の枝葉や樹皮を識別しながら樹種名を鑑定しました。

受講した職員は、自ら鑑定した樹種名の正誤答に一喜一憂しながら樹種の見分け方を学んでいきました。

人工林の多様な森林への誘導等、公益重視の管理経営を一層推進するなかで、その組織・技術力・資源の活用が国有林に求められる中、今後も職場内研修を通じて職員のスキルアップに取り組んでいきたいと考えております。

森づくりの構想フォローアップ 現地検討会を開催

【岐阜署／森林技術・支援センター】十月十二日、岐阜署管内の乗政国有林において「森づくりの構想フォローアップ現地検討会」を開催しました。

「森づくりの構想」については、准フォレストラー研修（平成二十三～二十八年の六年間）等において、将来予想される森林管理の方法についての現地検討・発表を、このフィールドを対象として実施してきました。

この場所は、平成二十八年度に間伐（ヒノキ八十三年生・百三年生）を実施したことから、これまでに受講した研修生等を対象にフォローアップを兼ねて、状況を確認してもらい今後の森林管理の方法について検討を行いました。

森林総合管理士等の方々（二十二名参



森林文化アカデミー横井秀一教授からのコメント

加）からの多様な意見に対し、講師の岐阜県立森林文化アカデミー横井秀一教授から地域の特性に応じた多様な森林づくり等のコメントをいただき、有意義な現地検討会となりました。

岐阜県の民有林には、このような高齢林を間伐した森林は少なく、今回のような検討会は、森林総合管理士の方々にとっても、今後の森林管理における良い指標・検討材料になるものと確信しております。

行事・会議等の予定

◎国有林モニター会議

12月18日 中部森林管理局



きれいなヒノキ間伐林での検討状況（104年生）



「飛騨市神岡森林事務所」

地域統括森林官 影山 成生

神岡森林事務所は岐阜県の北部に位置する飛騨市神岡町にあります。

今年の四月から栃尾森林事務所を兼務することとなり、区域は飛騨市神岡町の全域と高山市上宝町の一部を管轄し国有林は神通川の支流高原側沿い、富山県境近くの大津山国有林から日本を代表する山岳地帯北アルプスの穂高連峰を有する穂高国有林までの二十九団地、面積約二二、〇〇〇㊦、標高二九〇㊦から三、一九〇㊦の奥穂高岳まで、標高差は実に二、九〇〇㊦もある多様な環境の国有林を管理しています。

人工林はスギ・カラマツを主体に四、五〇〇㊦で全体の約二割と豪雪地帯の



天然更新が完了した林分

ため低くなっています。

天然林はブナ、ナラ等の広葉樹からアオモリトドマツやシラバ等の亜高山性の針葉樹まで多様な樹種が生育しています。過去に、天然林施業が実施された箇所は、下層植生がコケ型、ササ型の箇所ともに更新完了しています。

大津山国有林の池ノ山の地下一、〇〇〇㊦には、ニュートリノの観測で世界的に有名なスーパーカミオカンデがあり、年に数回一般公開されますが、有料にもかかわらず人気が高く毎回抽選となっています。



深洞湿原

金木戸国有林の深洞自然観察教育林には「天生県立自然公園と三湿原回廊」のひとつとして、「岐阜の宝もの」に認定されている深洞湿原があり、自然観察ガイドとともに湿原を散策するツアーは好評を得ています。



鏡池から槍ヶ岳を望む

深洞湿原は開放的な空間が広がる湿原とは異なり、トウヒの原生林に包まれています。標高一、五〇〇㊦に位置する深洞湿原は、この地域のトウヒ生育域の下限ですが、湿原によってトウヒの成長が促進され、三〇㊦を超える巨木の森を作り上げています。足下にはミズバショウやリュウキンカ、モウセンゴケなど湿原を代表する植物が広がり、特にミズバショウとリュウキンカが咲きそろう初夏には賑やかな光景が広がります。

穂高連峰等の名峰を有する穂高国有林は、登山シーズンともなると、若者から中高年の登山者で毎年賑わっています。また、この地は、奥飛騨温泉郷と呼ばれるだけあって、国有林からも温泉が湧き



ワサビ平小屋付近 (H28撮影)

出しています。

当森林事務所は、森林官、一般職員、行政専門員、臨時職員の四名で、境界管理、生産・造林事業や立木調査のほか、北アルプスでのセンサーカメラによるニホンジカの生息調査を行っています。

雪で覆われるのも時間の問題となりましたが、安全対策を遵守し無事故無災害で、今年度も終えたいと思っています。



職員一同 (中右が筆者)



青木三山の一つ「子檀嶺岳」

青木村は長野県の東部、上田市の西に位置し美しい山々に囲まれた農山村です。南に夫神岳（標高一、二五〇メートル）、北に子檀嶺岳（標高一、二三三メートル）、西には十観山（標高一、二八四メートル）がそびえ、これらは昔から「青木三山」と呼ばれ村のシンボルとして村民から愛されており、里山トレッキングには最適です。標高は役場の位置で五五五メートルあり、村のほぼ中央を浦野川が東に向かって流



青木村特産そば「タチアカネ」



割そばでもつるつるして子どもにも人気です。村内にはタチアカネを食べることのできるお店が五軒ほどあります。

れ、清新な潤いをもたらしています。そしてこの川に、三方の山に源を發する田沢川、湯川、沓掛川、阿鳥川が合流し、千曲川に注いでいます。村の面積は約五、七〇〇ヘクタールで、うち山林が約八割を占めています。
◆タチアカネ（青木村特産そば）
タチアカネは、長野県野菜花き試験場で開発された後、平成二十一年度に農林水産省の認定品種に指定され、本格的な栽培が始まったばかりのそばの品種です。名前の由来は茎が丈夫で倒れにくい特徴から「タチ」と、そばの白い花が実になると茜色になる「アカネ」からきています。独特の風味と甘みが特徴で、十

◆田沢温泉、沓掛温泉
十観山の山間にある飛鳥時代後半の開



国宝 大法寺三重塔



◆国宝 大法寺三重塔
「見返りの塔」と名付けられたこの塔は、その美しさから思わず振り返るといふ意味からつけられたといわれています。美しさの由来は、初重が特に大きく安定感のある工法で、他には、奈良の興福寺の三重塔だけと極めて珍しい工法です。正慶二年（一、三三三年）、鎌倉から南北朝時代へと移る時期に建設され、以来六世紀の年月を経て今も見る人の目を引きつけています。塔の高さは礎石上端から宝珠上端まで一八、五六メートル。高台にあり周囲の緑と調和して、素朴でありながら美しさを際立たせています。昭和二十八年国宝に指定されました。

○青木村へのアクセス
・車
上信越自動車道・上田菅平インターから国道一四三号で約三〇分。中央自動車道・長野自動車道・麻績インターから県道一二号で約三〇分
・電車
北陸新幹線・しなの鉄道上田駅から青木行きバスで約三〇分

湯といわれる田沢温泉は、昔から子宝の湯として、また乳の出が良くなる温泉としても知られています。近くには子安地藏尊を安置した薬師堂があり、四季を通じて参拝客もあり、旅館三軒のほかに、日帰り温泉施設として「有乳湯」があります。
沓掛温泉の開湯は平安時代で、地名の旧称から「浦野の湯」と呼ばれた時代もあり、文化七年（一、八一〇年）「旅行用心集諸国温泉二九二ヶ所」にも記載されるほど昔は湯治客で大変賑わい、近隣の温泉地をはるかにしのいだと伝えられています。二軒の旅館のほかに、日帰り温泉施設「小倉乃湯」があります。



田沢温泉